

平成 27 年度 第 1 回河内長野市文化振興計画推進委員会

【日時】平成 27 年 5 月 15 日（月）午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分

【場所】市役所 6 階 602 会議室

【出席者】

<河内長野市文化振興計画推進委員会委員>

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・今村 尚美・中道 厚子・長山 公一・中脇 健児・
寶楽 陸寛・水落 学・安福 廸子

<事務局>

（河内長野市教育委員会事務局文化・スポーツ振興課）

橋本・森井・上田・東畑・西尾

（ランドブレイン株式会社）

小笹、三浦

【配布資料】

- ・平成 27 年度 第 1 回河内長野市文化振興計画推進委員会 次第
- ・資料 1 課題と方針（案）
- ・資料 2 方針と施策（案）
- ・資料 3 課題と方針（案）旧
- ・資料 4 文化振興計画策定スケジュール
- ・資料 5 平成 26 年度 第 6 回河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

以上

(橋本部長挨拶)

東畑主査

本日の審議会、傍聴人が1名います。では、議事の進行をよろしく願います。

(委員長挨拶)

末延委員長

本日は、課題と方針について話し合う予定である。委員の皆様より、意見を伺う。

では、案件1、2についてランドブレイン株式会社より解説よろしく願います。

(資料1、2の説明)

末延委員長

方針1、2、3、4について、委員のみなさまの意見を自由に発言いただきたい。また合わせて施策の展開イメージについて発言いただきたい。

中脇委員

進め方について提案があります。施策案について、多くの意見が必要だと思う。そこで、委員がグループに分かれて意見を出し合ってはどうか。

末延委員長

グループに分かれて話し合いをする形で進めてよろしいか。では、浅尾委員、今村委員、中道委員、長山委員。次に、安福委員、水落委員、宝楽委員。そして、荒川委員、中脇委員そして私というグループでいかがか。

(各グループで意見の発表)

末延委員長

では中脇委員、宝楽委員の進行で、各グループの意見を発表いただきたい。

中道委員

市民が主役で参加する機会について、世代の特性を踏まえた中身の検討が必要ではないか。そのためには、世代の傾向を分析すべきである。

中脇委員

ターゲットを絞り、効果的なやり方を考えるべきということか。

中道委員

市民アンケートを行ったので、世代ごとの分析も丁寧に行うべきである。

中脇委員

施策イメージとしては、ターゲットに応じたマーケティングやプランニングの重要性ということだろう。

中道委員

次に、循環をつくるための人材を育成すべきで、具体的な取組みについて検討していかなくてはいけない。

中脇委員

人材リストはすでに存在するが、情報の管理ができていないため活用できていない。

中道委員

その課題から、コーディネーターの役割をする人材が必要である。学校を先進事例とし、学校の課題を解決することから循環を起こし、それを市内に広げていくという流れが考えられる。

また、循環を起こす際に、繋がり続けるにはメリットが無いといけない。いかに、ボランティアで活躍する市民へメリットを作り、継続するかが重要である。

末延委員長

メリットが必要なのは、行う側、参加する側も両方だろうか。

中道委員

例えば、活躍した活動がポイント化されたり、次の補助金の対象になるなど、担い手も報われる仕組みが無いと循環は起こらないのではないかな。

中脇委員

仕組みとしての具体的なメリット、資金について施策に記すべきということだろう。

また、制度として整えた方が良いということだろうか。

中道委員

私はそう考える。課題を理解でき、かつデータを把握し、繋ぐ力が必要だ。河内長野で経験や知識を蓄積し、様々なことを解決できるコンシェルジュが必要だと思う。

中脇委員

文化コンシェルジュはいいと思う。また、有償ボランティアの仕組みだけでなく、指定管理者の中にも技術やノウハウを繋げていく役割が必要である。

中道委員

指定管理者との契約が終了し、今まで蓄積してきたものが無くなるという状況も起こりかねない。それでは困るので白紙に戻らない仕組みが必要である。

課題は、どうすれば継続できる仕組みが生まれるか、どの役割が担うべきかということである。

他に、まち歩きイベントの際にパンフレットをただ売るだけでなく、地域に合わせた冊子を100円程度で販売し、色んな地域を周り蓄積し自ら冊子にしていくというのはどうか。多く集めた人を観光マイスターとする。

中脇委員

中道委員の意見はかなり具体的であり、もう少し上の階層での表現をすると「市民主体の情報編集・発信」という意味か。

中道委員

市民で自ら作ることができる仕組みづくりと言い換えても良い。

宝楽委員

市民も主体的に関われる仕組みとも言える。

中脇委員

では、続いて私の班から報告する。まずラブリホールは十分にできている。しかし、公民館の動きが外部から全く見えない。公民館活動の相互交流が必要である。また、他館の職員間の相互交流があれば人材育成が育まれるのではないか。

講師間の相互交流の場作りも必要である。他に、ぐるっとまちじゅう博物館を中心とした他分野の連携など、色々なジャンルが合わさることが重要。どこに位置づけされるか。

宝楽委員

方針2ではないか。

中脇委員

地域振興のためには、文化財等を活用する以外に、地域文化、例えば食文化・風習なども地域資源とし、活用する事業が大切ではないか。例えば、丸太切りを競い合う、山菜料理を楽しむなど、通常は産業振興や観光に位置づけられるものも文化とすることができる。結果的に、地元企業などを巻き込む仕組みが作れるのではないか。

荒川委員

他には、地域での子どもの遊びについて、同じ学年でしか遊ばない問題がある。

今村委員

異年齢集団による縦割り活動と学校教育では言う。

末延委員長

学校教育では行われているが、学校を離れると途端に希薄になっている。また、子ども会も成立しなくなっている。

今村委員

地域の健全育成や青少年指導員の力を借りて土曜日に開催される「楽習室」はある。そこで様々な学年の子どもが集まって一つの活動をしている。駅前子ども教室とは別の活動である。

末延委員長

その活動は、学校区を外れているのか。

今村委員

中学校区にある健全育成会単位で開催されている。また、参加するとくろまるキッズのポイントも付与される。人材育成でもこういった制度を活用していくといいのではないかな。

荒川委員

昔、子どもの遊びでは「ごまめ」というルールがあった。例えば、小さい子は鬼ごっこの時に捕まっても鬼にならない、年上の子が小さい子を連れて走らないといけないなどがある。現代では、能力に差のあるものが一緒にいかに楽しむかという視点が薄れている。

中脇委員

現代的「ごまめ」の復活という視点はいいと思う。他に、高齢者の知恵やお話のデータ化も意見として出ていた。

また、市民活動や公民館活動の情報発信について駅前のショーウィンドウを活用できれば、知るから参加を生み出す繋がりになるのではないかと考えた。

交流をいかに見える化するかが重要で、デジタルサイネージが市内にあってもいいのではないかなという意見や魅力的なキャッチコピーも必要だという意見が出た。

宝楽委員

このグループでは、「なぜ河内長野で文化事業を行うのか」の問いへの答えが明確でなく、文化がぶれない軸、体制をこれからどうしていくかということが挙がった。これは市民が主役の感動と交流の場作りという枠に入ると思う。

中脇委員

問題提起ですね。施策的言うと、市民主体で評価しあうという意味かな。

水落委員

補足すると、河内長野でなぜその事業を行っているのかが見えないというのは、他市と差別化できていない理由にも繋がっている。逆に言うと、売り込むところが無いとも言える。現在の文化事業を継続するにあたり、大事な視点ではないかな。

宝楽委員

市民主役の感動と交流の場作りについて、プロと市民文化の線引をどうするのが分からない。例えば、ハイアートの文化を享受することも本物に触れると言えるし、また、市民が主体的に本物に触れる機会を作ることも同様である。

水落委員

舞台に上がることだけをプロといわず、プロデュースや情報発信で鑑賞の楽しみ方を啓発する人材、楽しみ方の選択肢を増やす役割もプロといえるのではないかな。

中脇委員

啓発普及にあたる。

宝楽委員

職員が文化のコンシェルジュになるという話に繋がるが、ラブリーホールにアートで繋ぐ機能が必要ではないだろうか。また、文化施設の有効的な活用も大切ではないか。

一方で、河内長野の街中にあふれる絵画や屋外のアートなど既にあるものをPRすることが必要である。

また、文化事業に取り組む際に誰に相談すればいいのか、現状では分からない。

現場の視点で言うと、横の繋がりを作るプロデューサーが少ない。

他に、アウトリーチについて、どのレベルまで考えるかが、見えてこない。例えば劇場に来ることができない高齢者等に本物を届けるのか、それとも市民の活躍の場を広げるのかの方向が見えてこない。

今、アートの視点で商店街のにぎわいを作る事業を行っており、その事業では地域の資源を活用し、楽しむ「100遊び」を提案している。地域資源を活用した事業を行っている。

中脇委員

どの分野も過不足無く意見が出たと思う。

末延委員長

最後に、出た意見を確認する。

(各グループの意見の確認)

末延委員長

委員みなさまの意見が出た。これをもとに、以後議論を深めていく。

次に今年度のスケジュールについて事務局よりお願いします。

(策定スケジュールについて事務局より解説)

東畑主査

12月に本市市議会に提案する予定です。そのため、開催スケジュールを今年度前半に集中し、計画策定の議論を行いたいと考えています。次回につきましては、6月の中下旬で予定しています。

末延委員長

今年度前半で議論を深め、余裕を持って進行するためにスケジュールを変更した。以上で終了します。ありがとうございました。

以上